

平成 28 年 9 月 26 日

労働災害発生要因及び現場の状況についてのアンケート調査結果について
(管内 52 現場へのアンケート調査の結果概要) (中央労働基準監督署)

建設業の労働災害については、長期的には減少しているものの、中央労働基準監督署管内(千代田区・中央区・文京区)においては、この 10 年間は増減を繰り返し、ほぼ横ばいの状況になっております。(資料 1)

当署管内では、4 年後のオリンピック開催を控え、関連施設のほか、大規模再開発工事・解体工事・補修工事等の建設現場が増加しており、建設労働者の人手不足を相まって、現場の安全衛生管理が低迷するなど、建設業の労働災害増加が危惧されるところです。

特に、大規模建設工事現場(請負金額 50 億円以上)における災害発生状況を見ると、直近の 3 年間で災害件数が急増している状況にあります。(資料 2)

このような背景から、当署では、管内の大規模建設工事現場(52 現場)に労働災害が減らない要因や建設現場の状況についてアンケート調査(平成 28 年 7 月実施)を行い、今般、下記項目について集計いたしました。

記

- 1 労働災害が減らない要因について(人的要因)
- 2 労働災害が減らない要因について(物的要因)
- 3 現場の状況について(労働災害に関連する要因)
(詳細は別添のとおり)

問い合わせ先

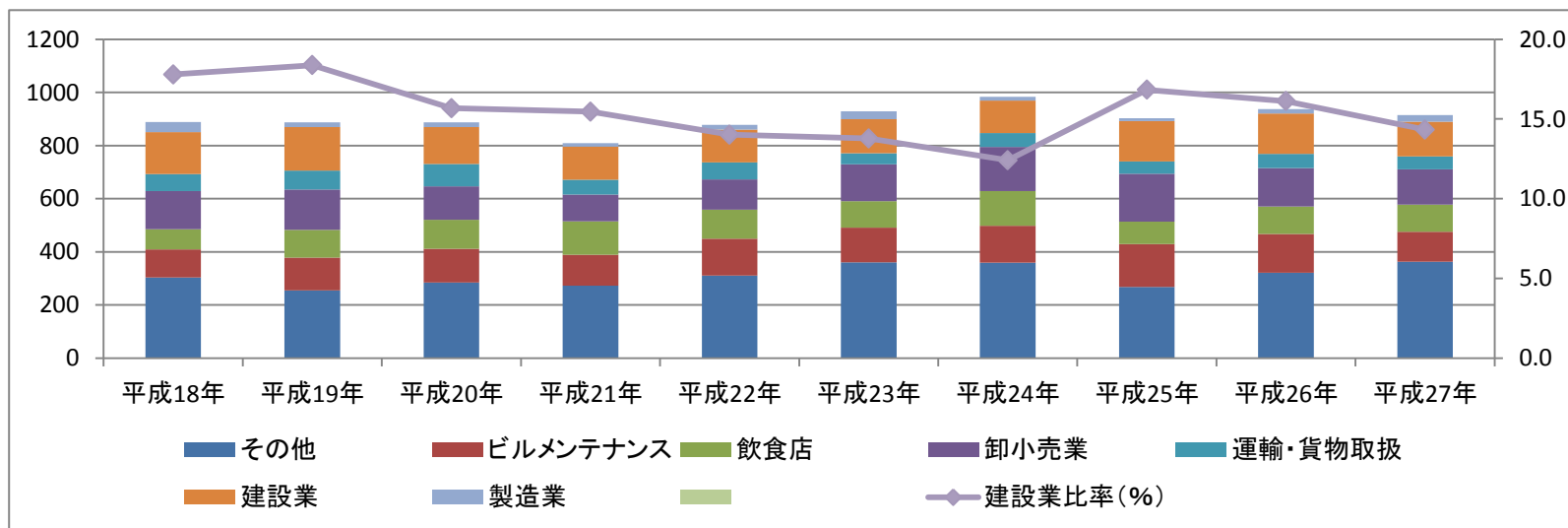
〒112-8573
文京区後楽 1-9-20
中央労働基準監督署 安全衛生課長 長澤 英次
電話(5803)7382 FAX (3818) 8411

休業4日以上労働災害の推移(中央労働基準監督署管内)

資料1

	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
その他	303	255	284	273	310	360	359	268	321	363
ビルメンテナンス	106	123	127	116	139	131	139	161	146	113
飲食店	76	104	110	126	109	100	130	84	103	102
卸小売業	143	152	125	100	115	138	167	181	145	133
運輸・貨物取扱	65	72	85	56	64	42	52	46	54	48
建設業	158	163	139	125	123	128	122	152	151	131
製造業	37	18	17	13	18	30	14	11	17	24
合計	888	887	887	809	878	929	983	903	937	914

建設業比率(%)	17.8	18.4	15.7	15.5	14.0	13.8	12.4	16.8	16.1	14.3
----------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

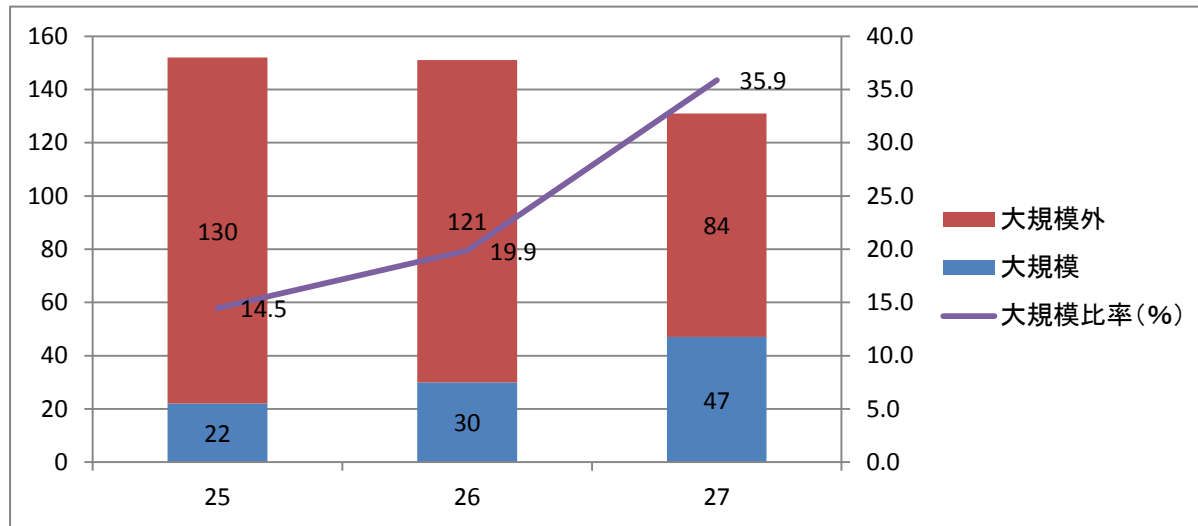


大規模建設工事現場の災害割合(中央署管内)

資料2

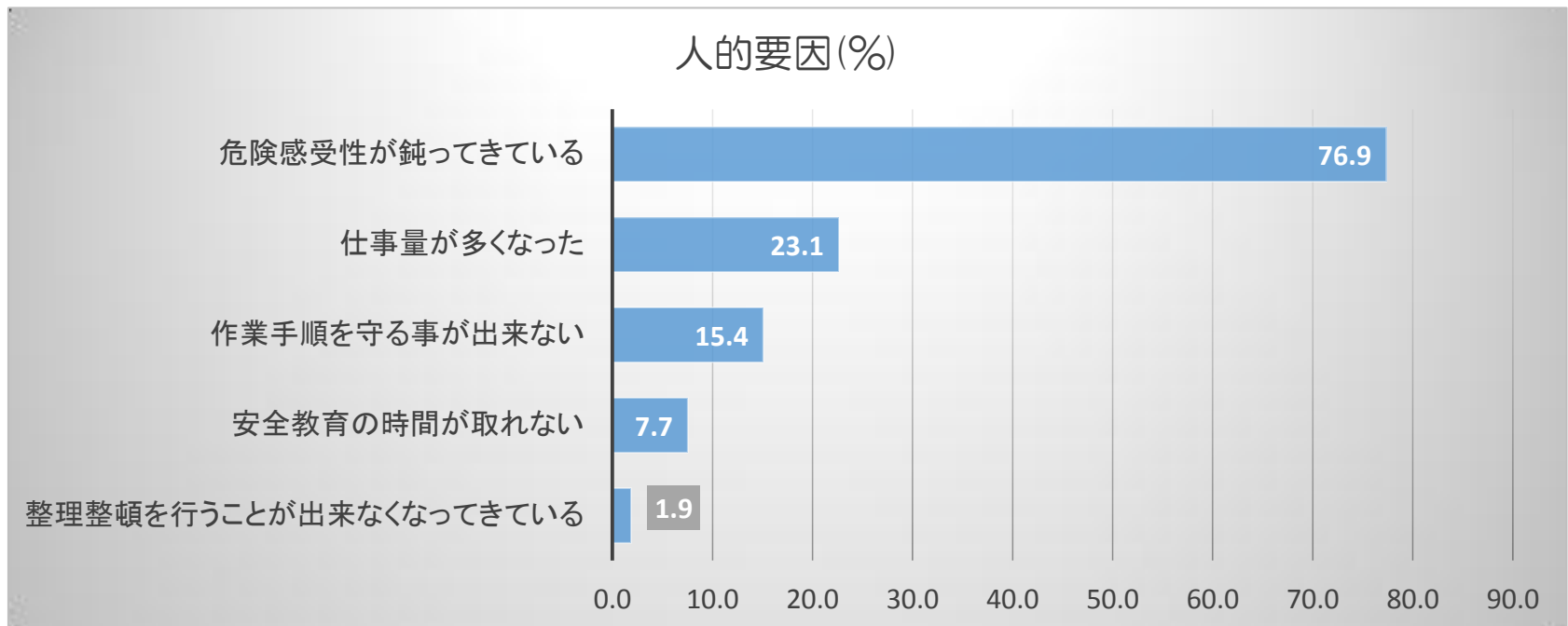
年	大規模	大規模外	合計	大規模比率 (%)
25	22	130	152	14.5
26	30	121	151	19.9
27	47	84	131	35.9
総計	99	335	434	22.8

大規模建設工事現場 : 請負金額50億円以上の現場



労働災害が減らない要因について(人的要因)

人の面(回答数52・複数回答可)	回答数	比率(%)
危険感受性が鈍ってきている	40	76.9
仕事量が多くなった	12	23.1
作業手順を守る事が出来ない	8	15.4
安全教育の時間が取れない	4	7.7
整理整頓を行うことが出来なくなっている	1	1.9



労働災害が減らない要因について(人的要因)コメント

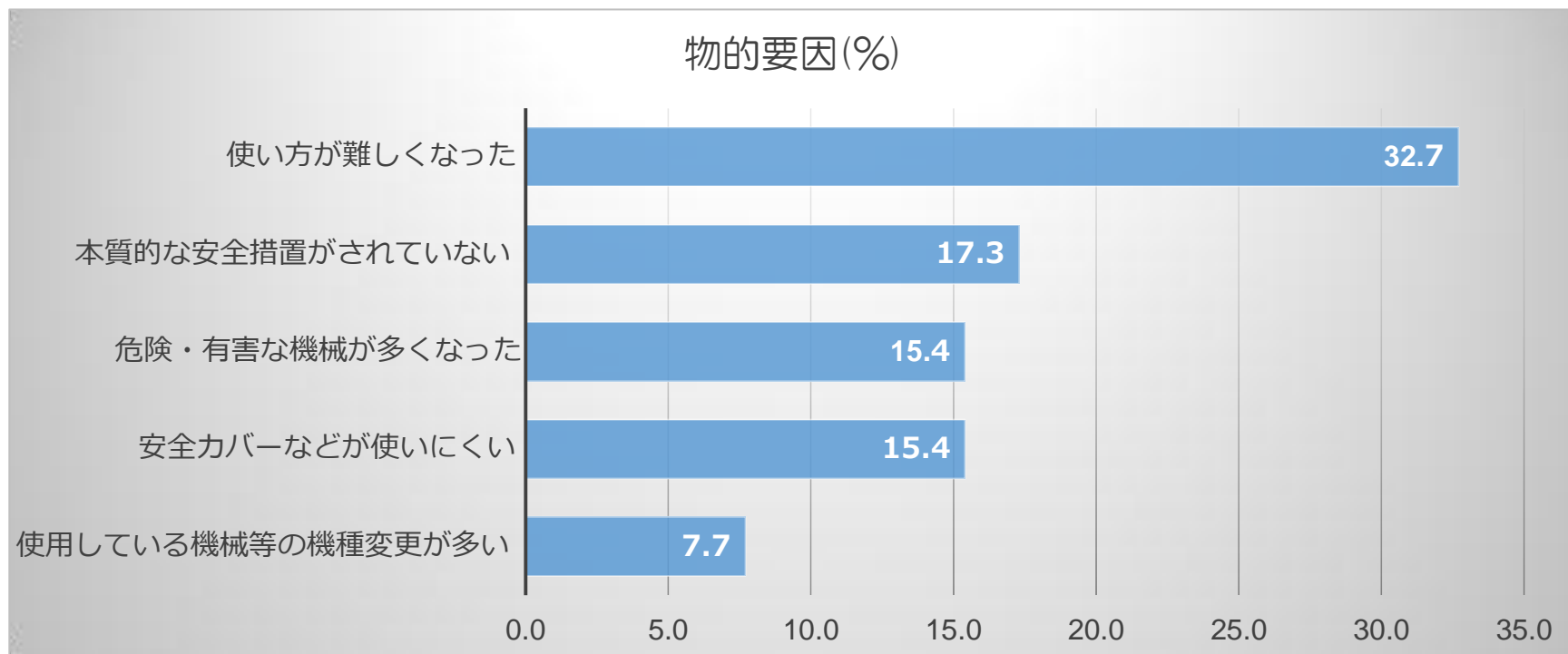
- ・安全管理の基本は現場に出て現場、現物、現状をよく見ることであり、危険を見逃さない感性を磨くように現場関係者とのコミュニケーションが重要。
- ・作業の姿勢や次の工程でどういう形となって作業になるかという想像力が弱くなってきている。その想像が出来れば今やるべきことがわかり、不安全な状況がなくなる。
- ・重大災害に結び付く危険作業は管理されるが、実際の災害の多くは通常の作業で発生しており、通常の作業においては、個人の技能・安全意識に頼ることが多い。
- ・熟練作業員が不足している反面、他の職場から転職してくる、「にわか作業員」が増加し、危険を感知する洞察力に乏しい作業員が増えている。
- ・安全施設の設置や作業環境整備が徹底され、作業員は自ら考えて動くことが少なくなり、危険感受性が鈍くなっている。「考えて動く」という行動が十分でない。
- ・工程、コストが優先される社会風潮が作業員の意識まで及んでいる。若手の職業倫理が稀薄であり言われたことしかやらない。
- ・文化レベルの問題であるが、「想像力の欠如」が根底にあると思う。「危なそう、倒れそう、落ちそう、痛そう」といった事を瞬間的に想像できる(してしまう)感性が無くなってきている感じがする。
- ・安全衛生協議会の伝達事項が作業員のすみずみまでに伝達出来ていないような感じがある。

(考察) 「危険感受性が鈍ってきている」が、回答現場の8割近くを占めている。この背景には未熟練労働者の増加だけでなく、個人レベルでの「想像力の欠如」や「安全意識の低下」などの意見もある。

今後の対策としては、労働者の危険感受性を磨くための教育を根気強く行うなどのほか、労働者の行動をよく見てアドバイスを行うなど、きめ細かい指導が必要であると思われる。

労働災害が減らない要因について(物的要因)

物の面(回答数52・複数回答可)	回答数	比率(%)
使い方が難しくなった	17	32.7
本質的な安全措置がされていない	9	17.3
危険・有害な機械が多くなった	8	15.4
安全カバーなどが使いにくい	8	15.4
使用している機械等の機種変更が多い	4	7.7



労働災害が減らない要因について(物的要因)コメント

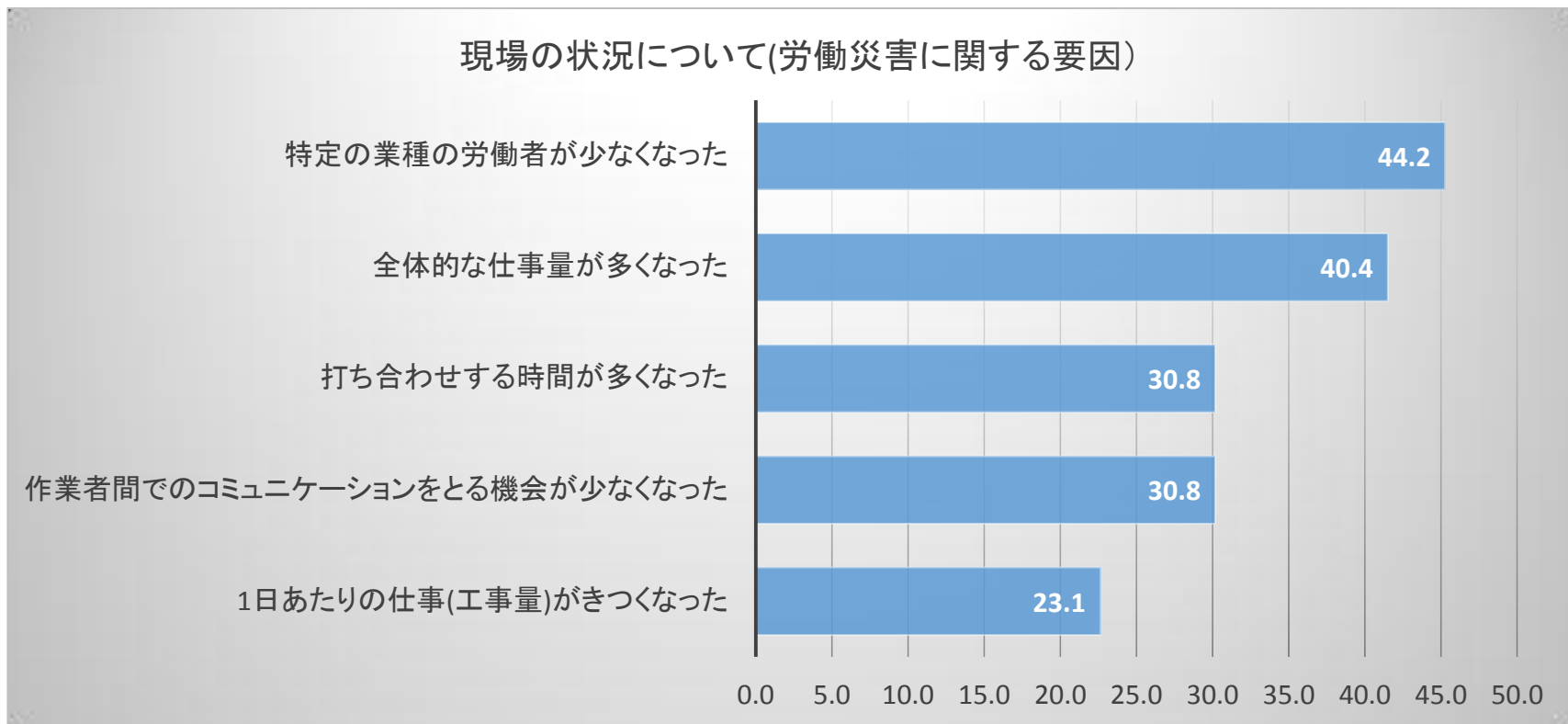
- ・小型化、軽量化、多機能化が進み使い方を完全に理解するのが難しい。
- ・重機や機械の安全性は向上していると思うが、性能が良く、能力が高くなった分、ヒューマンエラーが発生した場合に災害につながる可能性が高くなっている。
- ・建設機械や高所作業車、フォークリフトが色々な場所に配置され、可搬式足場も多用されているが、問題はその使用方法や区画等の安全ルールをおろそかにしていることであり、使い方や危険性を十分に熟知して安全対策を講じることが肝心である。
- ・便利な工具が多くなっているが、それぞれの工具の危険性を理解せずに安易に使用している作業員も多い。
- ・しっかり正しい使い方がなされていないまま、間違った使用方法により事故が起きている。(近道行動、面倒くさい)
- ・機械や工具の進化に対応出来ていない。(取扱説明書も読まずに使用している)
- ・作業員は時間に追われ、管理する人の目も行き届かなくなり、結果として本質的な安全措置が疎かになることがある。

(考察) 「機械・道具の使い方が難しくなったと」が、回答現場の3割を占め、ほかに「機械・道具に本質的な安全措置がされていない」が、回答現場の2割弱となっている。現場では、多機能で便利な道具等が流通している反面、使用方法について、本来マニュアルを見て熟知してから使用する必要があるものについて、あまり見ずに安易に使用しているなどの意見もある。機械・道具自体に本質的な安全措置がされていないものや、安全装置が装備されているものの、使いにくいという意見もある。(作業性が落ちる)

今後の対策としては、機械・道具等について、事前に構造や使用方法を確認するほか、マニュアル等を良く確認し適正な方法で使用する事が重要であるが、これに加え、職長・事業者・元請事業者が適正な使用状況で作業され、安全装置(安全カバー等)を確実に使用していることをチェックしていくことが必要であると思われる。

現場の状況について(労働災害に関連する要因)

現場の状況(回答数52・複数回答可)	回答数	比率(%)
特定の業種の労働者が少なくなった	23	44.2
全体的な仕事量が多くなった	21	40.4
打ち合わせする時間が多くなった	16	30.8
作業者間でのコミュニケーションをとる機会が少なくなった	16	30.8
1日あたりの仕事(工事量)がきつくなった	12	23.1



現場の状況について変化したこと(労働災害に関連する要因)

- 全体的に作業員の数が減っている。「にわか職人」多くなっている。
- 安全のみならず、仕事を進める上で、書類が膨大になってきている。
- 設計図書の完成度が低く、着工後に詳細を決める比率が高く、現場社員の負担が増加。
- 工事が細分化され全体の流れを理解したうえで工事を指揮する職長の減少。
- 安全の意識はあるものの、コスト面や人材不足等で、多少手抜きをしてしまうこと、現地で何が行われているかを見過ごしてしまう場合がある。
- 都心部は大型物件が多く、中小規模物件のように末端作業員まで目が行き届かなくなった感じがする。結果的に作業員とのコミュニケーション不足となる。
- 便利な可搬式作業台が増加し、簡単に利用できる反面、転落等の災害も増加している。便利な道具を使いこなす教育が重要となる。
- 作業員の若返りとともにコミュニケーションが苦手な世代となり、会話そのものが出来ない者が増えている。元請社員も同様。

(考察) 特定の業種の労働者不足、仕事量の増加を挙げるものが回答現場の4割を超え、そのほか、打ち合わせに掛ける時間の増加、コミュニケーションの不足をあげるものが回答現場の3割となっている。

人手不足のほか、未熟練労働者の増加の反面、ベテランの職長の減少の意見も多くあり、仕事量の増加と複雑化が相まって、現場全体の忙しさが増加していることがうかがわれる。

また、作成書類の増加、設計図書の完成度の低下などについても、現場の忙しさの増加につながるものとなっている。

コミュニケーション不足の意見も非常に多く、作業員の年代が若返るとともにその傾向は強いという意見や現場全体の忙しさにより、現場のすみずみまで見ることが出来なくなり、結果的にコミュニケーションをとる時間が不足しているとの意見もある。

労働者不足や仕事量の増加については個々の現場では解決が出来ない問題であるが、コミュニケーションの活性化については、各現場で工夫を重ねて対応していることから、今後、好事例等を他の現場に展開するなどの対策が必要と思われる。

建設現場において、最近危険だと思った事について

- ・仮設階段昇降中に手すりの固定が緩んでおり、バランスを崩して転倒しそうになった。
- ・鉄骨建方時に使用する仮設足場受けのピース溶接が不十分であり、体重をかけた瞬間に足場が外れて傾き、墜落しそうになった。
- ・開口部近傍でネットがめくってあり、立馬が近くにあった時など危険な場面がある。近傍作業の状況変化に対する予防力の不足を感じる。

その他のコメント

- ・工事の難易度が高くなるにつれ、また、工期が長くなるにつれ多くの経費が掛かることを理解し、発注金額に反映してほしい。これが結果的に安全に費やす時間や人の増加につながり、災害防止について一段高いレベルにつながる。
- ・災害防止は細かなチェックと「こうすると、こうなるので、こうしておけば安全」と気づく感性を持ち続けることが必要。99%OKでも1%のすき間で事故は起きるということを徹底していくことが重要。
- ・作業に夢中になると作業優先になって自分の身を守る事をなおざりにしてしまう。彼らを守るためには、繰り返し指示や指導を行い、こまめに作業行動をチェックすることが必要。
- ・常に整理整頓を行い、作業場所に無駄なものが無い様にするのが安全確保のために重要である。また、それは作業性を良くすることに繋がり、労働者の作業意欲向上にもつながる。仕事に対するモチベーションと安全確保はつながっていると考える。
- ・昔に比べて元請社員の業務が多忙となっている。労働時間の縮減を企業として取り組んでいるのに対して根本の業務量は変わらないため、結果として個人レベルでは時間不足で多忙な状態となっている。それ故、安全に対して割ける時間も減少している。
- ・日々の巡視による指導事項は想像力の問題もあり(想像力がにぶい)、必ず写真で指示をしている。想像力を養うべきと思うが、実際はこのように工夫をして想像力を働かせなくても理解できるようにしている。